

経営者・管理職の方必見！

5年後に生き残る会社になるための経営戦略

～働き方改革は人材確保・業績アップにつながる～

報告

講師プロフィール

- 1987年慶応大卒、三井物産入社、2012年系列上場会社の社長就任、イクボス式経営で利益8割増、株価2倍、残業1/4に。2016年社長を退任し独立。
- 仕事の傍ら、小・中のPTA会長（元）、NPO法人ファザーリング・ジャパン理事、NPO法人コチカラ・ニッポン代表を務める。
- 家事や育児（ライフ）、商社勤務や会社社長（ビジネス）、PTA会長やNPO代表（ソーシャル）という3つの経験や視点を融合させた講演が年300回以上。
- NHK「クローズアップ現代」では“元祖イクボス”として特集され、AERA「日本を突破する100人」に選出されるなど多数メディアに。



講師 川島 高之さん

三井物産系の上場企業 社長（2016年退任）
（株）K & Partners 代表取締役社長

平成29年9月6日（水）、（株）K & Partners 代表取締役社長 川島高之さんをお迎えして、働き方改革セミナーを開催しました。

人材確保、業績アップにつながる「イクボスになる秘訣」「働き方改革」について、川島さんの体験を交えてお話しいただきました。

参加者のみなさんそれぞれが、自身の働き方、生き方について考えるよい機会になりました。



セミナーの内容の一部をご紹介します

川島さんは、ある時期、遅刻をしてくる部下がいて、「遅刻をするなんてどういうことか」と怒っていました。しかし1年後、その部下が異動になることが決まった時、彼が不登校の子どもを毎日学校へ送っていたということ、初めて他の部下から聞きました。部下が命がけで守ろうとしているものを知らなかったし、知ろうとしなかった自分を、**上司失格**だと思ったそうです。

部下が大切にしていることや、生き甲斐となっていることを、職場で「守れる、継続できる」という**安心感の土台**がなければいい仕事はできない。生産性を高めるには、無駄を省くより**部下の熱意ややりがい、成長意欲や自己高揚感**を満たすことが大事だと語られました。

自分や家族を殺してまでする仕事があるだろうか…。自分や家族を大切に、上司自身が生き甲斐を見つけて輝く。そして、ワークライフバランスは「緩い」のではなく「厳しい」という意識と姿勢をもち、**部下も上司も権利主張の前に職責を果たそう**。川島さんはそう語られました。

20年前は24時間365日闘って仕事をしていた頃から、お子さんの誕生を機に働き方改革を考え始め、現在まで、失敗もあったけれど、それも**自分の宝箱**だと言われる川島さん。**ワーク、ライフ、ソーシャルのバランス**をとりながら、**ハイブリッドな人生**を送る生き方に、多くの学びを頂いた講演となりました。

川島さんからのメッセージ

人生は一回。だから、3倍楽しもう

Work、Life、Social=Hybrid人生のススメ

仕事と私生活はシナジー関係

私生活充実が仕事の能力・成果を高める

ワークライフバランスは経営戦略

組織の成果は部下の満足度と比例

働き方、働かせ方を大きく改革

新しい働き方とマネジメントを

イクボスの10か条

- ① 部下の生活環境や家庭事情などを理解し、可能な限り配慮をし、部下の人生そのものを応援する。
- ② 仕事をする上での「制約条件」、考え方や価値観の「違い」などを受け入れ多様な人材を活かす。
- ③ 育休などの社内制度や労基法などの法律を、最小限でいいので知っている。
- ④ 私生活充実の大切さと、権利主張の前に職責を果たそうという意識を、全体に浸透させる。
- ⑤ 転勤や単身赴任など、部下の私生活に大きく影響を及ぼす人事について、最大限の配慮をする。
- ⑥ 休暇や時短者が出て、成果を出し続けるために、チームワーク醸成、情報共有、IT化などに注力する。
- ⑦ 会議・書類・メールの削減、やらない事を決める、迅速な意思決定などで時間を捻出する。
- ⑧ 「部下をコントロール」するのではなく、部下の力を信じ個別に指導し、「部下の成長をサポート」する。
- ⑨ ボス自ら、仕事×私生活×社会活動など、ハイブリッドな生活を満喫している。
- ⑩ 組織の長として、職責にコミットし、計画や目標達成に強くこだわっている。

参加者アンケートより

仕事のための日々の生活ではなく、日々の生活を充実させるために仕事の取り組みや改善方法をどうするかということを考えるよい機会となった。
(一般社員・20代男性)

育児、介護も応援する。仕事のスタンスが大変参考になった。
(経営者・40代女性)

社員たちの私生活を充実させることで業績アップという考え方を今後取入れていきたい。(一般社員・20代・女性)

現状をあきらめず、少しずつでもできることから改善していくきっかけになった。すべきことがわかった気がする。
(その他・60代女性)

私生活について見直す必要性を悟った。
(管理職・60代男性)

「気づかぬうちに自分が権利主張型に」という言葉にドキッとした。上司の事だけでなく、自分の働き方を振り返るいい機会になった。(一般社員・40代・女性)

ワークライフバランスは、生産性の向上であり、厳しいことであること、与えられるものではなく自ら得ていくことであるという認識が持てた。
(一般社員・30代男性)

社員の事情も理解しなければいけないと感じた。先入観、偏見を捨て、信用して仕事を任せられるようにしていきたい。
(管理職・20代男性)

コムズで研修中のインターンシップ生2名が準備から受付までスタッフとして活躍しました！



インターンシップの学生さんのセミナーに参加しての感想を掲載します。



大学3回生 薬師神さん

今回は経営者・管理職を対象とした講演会だったこともあり、まだ学生である私にとって身近に感じられる内容ではありませんでした。しかし、川島さんのお話を聞いて私の中での考え方が変わった部分もあり、とても勉強になりました。社会人になる前に貴重なお話を私は聞くことができたため、ここで学んだことをこれからの就職活動や就職したときに生かしていきたいです。

今回の講演を聞いて、「働き方改革は福利厚生ではない」という言葉が最も印象に残りました。育休の取得や私生活の充実を進めることは、経済的な効率性とは相反すると思いがちですが、長いスパンで見ればむしろ効率的であり、立派な経営戦略になることがわかりました。この考え方が経済界により浸透し、行政との両輪によって働き方改革が進んでほしいと思いました。



大学3回生 藤原さん

